

今、求められる「社会貢献」

全日本社会貢献団体機構は昨年12月に発足して以来、着実に歩みを進めてきました。

平山郁夫名誉会長からお声をかけていただき、私は本機構の会長をお引き受けさせていただきましたが、この職務を光栄に感じるとともに、「社会に貢献する」という高い理念を思うと、一層の努力を惜しまない決意を新たにしています。

戦後60年を経て日本は目覚ましい経済発展をとげましたが、残念ながら日本人の心の中に「他者のために何かをする」、「弱いものをみんなで支援する」といった精神が薄らいでしまっているようにも感じられます。社会における人と人の繋がりも見えにくくなっています。

国際的な視野から見れば、「日本は経済的には認められているが、尊敬される国か」といったような疑問も呈されているのではないのでしょうか。

そうしたなかで「社会貢献」ということは、これからの日本の社会作りの大切なカギを握る活動になると考えています。

学術文化の発展はもとより、命を大切にする活動、青少年の健全育成に関わる活動は、今、本当に必要とされている社会作りの要です。

そして、会員がこれまで各地域で取り組んできた社会貢献の成果を本機構がひとつに集約して、さらに日本の文化として積み上げていく事業は、かけがえのないものになるはずです。

その活動の第1回目の報告書である本書も、大きな意義をもっていることでしょう。刊行を心から祝したいと思います。



全日本社会貢献団体機構 会長

遠山敦子

業界の力をさらに結集して

私が理事長を兼ねております全日本遊技事業協同組合連合会傘下の各組織では、毎年全国で15億円を超える社会貢献・社会還元事業を実施してまいりました。その事業は、地元の祭りを盛り上げるための人手の派遣、街路樹や海岸清掃など地域社会への貢献、授産施設の商品購入、母子家庭や老人ホーム等への援助などを中心とした社会福祉活動、幼児や学童を犯罪から守る防犯活動など多岐にわたる様々な活動を実施しております。

今後これら各都府県・方面組合が実施して来た社会貢献活動を継続発展させるとともに、業界全体としての「力」を結集して、未来に向かって夢と実のある社会貢献を実施し、平和で住みやすい社会作りに貢献したい。そのための望ましい活動のあり方を組織内で検討を重ねた結果、我々業界だけでなく学識経験者、文化人、政財界関係者並びにマスメディア関係等広く部外の方々のご協力を得て、21世紀にふさわしい貢献事業を推進する第三者組織を立ち上げることとし、昨年12月12日に「全日本社会貢献団体機構」の設立に至ったものです。

全日本遊技事業協同組合連合会は、これまでのこうした活動経験の上に立ち、本機構に組織的にも資金的にも全面的な協力をしていきたいと考えております。

また、本機構の運営に当たっては平山郁夫先生、遠山敦子先生はじめ多くの学識経験者や政・財界のリーダーの皆様のご協力をいただき、社会や時代の要請に応え、広い視野に立った社会貢献をしてまいりたいと考えております。



全日本社会貢献団体機構 理事長

山田茂則